

2021年9月6日

日本病院会会員病院 各位

一般社団法人日本病院会
会長 相澤 孝夫
株式会社日本病院共済会
代表取締役 塚 常雄
株式会社フロンティア・フィールド
代表取締役 佐藤 康行

日本病院会のDXへの取り組み

『日病モバイル』オンライン説明会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

さて、ご高承のとおりデジタル庁の創設、行政のデジタル化などデジタル改革が進められています。また、マイナンバーカードの保険証利用、オンライン資格確認など電子カルテのみならずDX（デジタルトランスフォーメーション）の波が押し寄せています。

日本病院会では病院業務の効率化、職員の満足度の向上などに資するため、株式会社日本病院共済会および株式会社フロンティア・フィールドと提携し、医療現場で使用しやすく、セキュリティ面も重視した、病院向けスマートフォンの提供を昨年より開始しております。

つきましては、その『日病モバイル』事業に向けた取り組みや内容について、会員病院の皆様にご理解をいただきたくオンラインによる説明会を開催いたします。

業務ご多忙の折と存じますが、ご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

■開催概要

開催日時 2021年10月5日（火）～10月7日（木）。詳細は別紙をご覧ください。

開催方法 オンライン形式（web会議システム「Zoom」を使用します）

対象者 理事長、院長、事務（部）長、看護部長、システム部門責任者 等

参加費 無料

申込方法 後掲をご覧ください。

受付 株式会社フロンティア・フィールド 担当：鈴木・栗田

TEL：03-6268-8766（受付時間：平日9時30分から18時30分 ※祝日・年末年始を除く）

メールアドレス：contact@frontierfield.co.jp

■同封資料

日病モバイル 資料

株式会社フロンティア・フィールド 会社概要

日本病院共済会 NEWS 2020年9月号（VOL.154）掲載 日病モバイル導入事例

日本病院共済会 NEWS 2021年4月号（VOL.156）掲載 日病モバイル導入事例

『日病モバイル』オンライン説明会申込の流れ

1. 開催日時

開催日時は以下のとおりです。内容は各回とも同じです。

- ① 2021年10月5日(火) 11:00~12:20
- ② 2021年10月5日(火) 15:00~16:20
- ③ 2021年10月6日(水) 11:00~12:20
- ④ 2021年10月6日(水) 15:00~16:20
- ⑤ 2021年10月7日(木) 11:00~12:20
- ⑥ 2021年10月7日(木) 15:00~16:20

2. プログラム内容

- 1 開会挨拶 一般社団法人日本病院会 会長 相澤 孝夫
- 2 日本病院会のDXへの取り組み
一般社団法人日本病院会 情報発信担当 副会長 大道 道大
- 3 取組事例
日病モバイル 導入病院2病院
・医療法人弘仁会 板倉病院(千葉県)
・医療法人社団研仁会 北海道脳神経外科記念病院(北海道)
- 4 日病モバイルの紹介
株式会社フロンティア・フィールド
- 5 質疑応答
- 6 閉会挨拶 株式会社日本病院共済会 代表取締役 堺 常雄

3. 申込方法

以下の事項を事務局にメールで送信してください。

事務局メールアドレス：contact@frontierfield.co.jp

メール件名：日病モバイルオンライン説明会参加申込

- ・施設名
- ・参加者の所属部署名・役職および氏名
- ・電話番号
- ・メールアドレス
- ・オンライン説明会の参加日時(①から⑥までのいずれかから選択)

※事務局がメールを受信後、ZoomのURLおよびID・パスワードを送付します。

■お申込期限

2021年10月1日(金)

4. 本件に関するお問い合わせ先(事務局)

株式会社フロンティア・フィールド 担当：鈴木・栗田

TEL：03-6268-8766 (受付時間：平日9時30分から18時30分 ※祝日・年末年始を除く)

病院向け次世代モバイルサービス 日病モバイル

万が一紛失したとき
端末を遠隔ロック
できたら安心だな



スマホを導入したい
けど、コストは
なるべく抑えたい



ドクターに写真を
送って質問できたら
便利なのに



「誰か来て!」って時、
他のスタッフに
SOSを伝えられたら
良いのに



感染等の病棟で働く
職員のリスクを
減らしたい



スマホで
ナースコールが
受信できたら
便利だな



日病モバイルとは

- 日病モバイルは医療機関専用スマートフォンです。
- 日病モバイルはPHSと同様の機能はもちろん、病院のDX・働き方改革の推進に役立つ機能を多数搭載しています。また、日病モバイルの台数分だけでなく、全職員様分のIDを無償で発行いたしますので、1つの端末を共有してご利用いただくことも可能です。

問い合わせ先
株式会社 フロンティア・フィールド
TEL 03-6268-9071
e-mail contact@frontierfield.co.jp

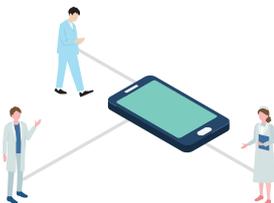


Frontier Field, Inc.

スマホにしたい、でもコストはなるべく抑えたい

「ログイン機能」で複数のスタッフが端末を共有できる

端末にログインするためのIDを利用者全員に発行
1台の端末を複数のスタッフで共有可能



万一の紛失時は、遠隔ロックが出来たら安心

「モバイル端末管理 (MDM)」で管理者による一元管理ができる

紛失時遠隔ロック、アプリDL規制、セキュリティ管理、
Androidバージョンアップ制御などの機能を搭載



「誰か来て！」って時、すぐにスタッフを呼びたい

「エマージェンシーコール」で緊急事態にも対応できる

病室などでの緊急事態の時に、一斉にアラートを発信
コールとともにすぐに音声録音を開始



ドクターに写真を送って質問出来たら便利だな

「セキュアなチャット」で確実な情報伝達ができる

セキュアな通信でチャットが可能
文字や写真で、より具体的な情報共有が可能



スマホでナースコールを受信したい

「ナースコール連携」で充実した患者対応ができる

従来のPHSと同様にPBXと直接連携
複数端末と同時に呼び出し
誰が応答したかのログを記録



感染等の病棟で働く職員のリスクを減らしたい

「ビデオ通話カンファレンス」で非対面の会議や遠隔診療ができる

最大10名までセキュアな環境でビデオ通話が可能
録音やスケジュールとの連携が可能 (現在開発中)



※ PBX (電話交換機) との連携が必要です。連携できないPBXのメーカー等があります。連携可否はお問合せください。
内線 (日病モバイル間の院外通話を含む) は通話料はかかりませんが、外線は病院の固定電話料金として課金されます。

会社概要



Frontier Field, Inc.

会社名	株式会社フロンティア・フィールド
事業内容	インターネット関連事業
設立	2016年7月15日
資本金	24,200万円(資本準備金含む)
役員	代表取締役会長 平野 浩治 代表取締役社長 兼 CEO 佐藤 康行
所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー 12階
代表番号	03-6268-9071
株主	株式会社NTTデータイントラマート Global Catalyst Partners Japan シミックホールディングス株式会社 みずほキャピタル株式会社 Y&Tアセットマネジメント株式会社
取引金融機関	みずほ銀行／三菱UFJ銀行
主要取引先	株式会社インターネットイニシアティブ 株式会社NTCテクノロジー 株式会社NTTドコモ 株式会社NTTファシリティーズエンジニアリング NTTラーニングシステムズ株式会社 株式会社ドコモCS ドコモ・システムズ株式会社 一般社団法人日本病院会 株式会社日本病院共済会 株式会社ハイエレコン 等

日本病院共済会 NEWS

VOL.154

2020.9

発行：株式会社日本病院共済会

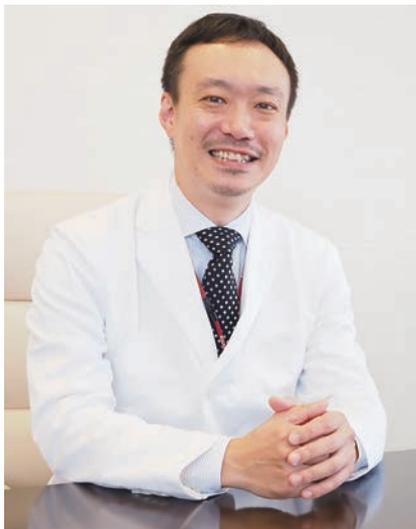
年4回発行

発行人：堺 常雄

〒102-0075 東京都千代田区三番町 9-15

ホスピタルプラザビル 1F

TEL 03-3264-9888



病院におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の現場では何が起きているのか。

2020年1月にサービスを開始した「日病モバイル」。

そして、その導入第一号となった医療法人弘仁会 板倉病院。

「地域に根ざした、信頼される高品質な医療の継続」という理念を掲げる板倉病院の取り組みと、「日病モバイル」が描く病院の未来について、同病院の理事長・院長である梶原 崇弘氏に話を聞いた。

医療法人弘仁会 板倉病院
理事長・院長

梶原 崇弘 氏

「日病モバイル」がもたらす未来の地域医療

「地域医療への貢献と高品質な医療の提供」という理念実現のための取り組みを聞かせてください。

—「地域密着型病院」を目指して—

病床数が限られている私たちのような地域の個人病院では「目の届く範囲内で丁寧に対応し、目の前の患者さんを大切にすること」が果たすべきミッションからブレないことがとても重要です。そのため当院では地域の患者さんに丁寧に、かつ高品質な医療を提供することを最も重視しています。さらに、このミッションを実現させるためには、病院がただ患者さんを待ち構えるのではなく、積極的に地域と交流を図ることも必要不可欠だと考えています。その取り組みの一つとして、当院では、認知症の方向けのオレンジカフェやこども食堂など地域に開かれた場の提供も行っています。将来的には「～向け」ではなく、患者さん・子供・障がい者などに限らず地域の皆様にフラットに参加して頂けるような地域コミュニティの場の提供を目指していきたいです。

また、地域の患者さんには当法人の施設だけでなく地域のクリニックなども積極的に活用頂きたいと考えています。日々高度化していく医療において当法人だけで全てをカバーすることは不可能です。だからこそ地域のクリニックや他の医療・介護施設との連携により地域で「屋根のない総合病院」を作っていきたい、それが私の地域医療に対する理想です。それが実現できたら、本当の意味で地域の人々の支えになれると考

えています。

—今後の病院経営において「デジタル化」とはどのような位置づけでしょうか？

今や病院経営においても紙だけの時代は既に終わり、デジタル化は必須だと思っています。これに乗り遅れた医療機関は取り残されてしまうでしょう。

地域との連携や地域への情報提供においてもデジタルは必要不可欠な存在ですし、病院業務の効率化や快適性の向上にも繋がります。

また、デジタル化は病院経営において重要なKPIである職員満足度の向上にも役立ちます。各職員が「この病院は新しい」「進んでいる」「おもしろい」と思うことは、各職員がモチベーション高く、快適に、そしてプライドを持って業務に取り組むことができる要素の一つです。このワクワク感を高めるためにはデジタルツールの導入は非常に効果的で、デジタルツール導入による職員満足度の向上は採用促進や離職防止にも繋がると思います。

—「日病モバイル」は病院のニーズに合ったデジタルツールです—

2021年1月のPHS公衆網の停波の対応として導入した「日病モバイル」は、電話機能やナースコールといった従来のPHSの機能に加えて、院内チャットやスケジュール、勤怠打刻など病院業務に必要な機能が一

つになっているスマートフォンというイメージですね。さらに、各病院の現状や課題、ニーズに合わせたカスタマイズや発展性が期待できます。今後、「日病モバイル」は病院業務に欠かせない、全国標準のデジタルツールの一つになると思います。

勤怠管理やワークフローといったオリジナル機能についてはいかがですか？

ワークフロー機能はまだ運用し始めたばかりですが、職員の残業や休暇の申請・承認がスマートフォン上でできるというのはいいですね。残業や休暇の申請・承認のデジタル化は業務の効率化にこれから大きく貢献してくれるでしょう。初めは誰もが紙での申請・承認しか経験がないために面倒なフローに思われがちですが、スマートフォンでワンクリックの方が簡単なことは一度使ってみればわかるので問題ないです。デジタル化に伴ってハンコ文化さえも消えていくと言われてる今、紙でのやり取りは無くしていくべき慣習の一つだと思います。

また、「日病モバイル」の勤怠打刻機能は、従来の病院の職員用出入口にあるセンサーにIDカードをかざすような勤怠管理システムとは違って、スマートフォンで管理するので、医療現場でリアルな実働時間を反映できるという点で病院経営にとって大きなメリットがあると思います。

「日病モバイル」を活用した勤怠管理は業務の効率化だけでなく、経営の適正化という点でも既に当院にはなくてはならないものだと思います。

地域のクリニックとの連携において「日病モバイル」はどのように活用できそうでしょうか？

「日病モバイル」のチャット機能は職員同士のコミュニケーションだけでなく、地域のクリニックとの連携においても非常に効果的だと思います。今は地域のクリニックの医師と電話やLINEのチャット機能などを使って紹介の可否などの話をしています。チャットはこのような外とのコミュニケーションにも非常に効果的ですが、地域のクリニックの医師とLINEのIDなどを共有しているのはごく一部ですね。やはりプライベートにも関わる部分であるため全ての医師とIDを共有することは難しいです。しかし、「日病モバイル」であれば「日病モバイル」を通じてチャットを利用できるため、例えば地域のクリニックの医師が全てが「日病モバイル」を持っていれば、その全ての医師とチャットを活用することが可能になります。そうなれば、地域との連携の迅速性や確実性が増すでしょう。

さらに、「日病モバイル」のチャットには画像送付の機能も搭載されているので、地域連携には非常に効果的だと思います。例えば、「このような皮疹があるのですが、今から皮膚科に行かせていいですか？」「このような影があるのですが、紹介してもいいですか？」といったコミュニケーションを地域のクリニックと緊密に行うことが可能になります。今までのように紹介状

を持って来院されてから「当院では診ることはできません」となるより患者さんにとっても病院にとっても良いというのは言うまでもないでしょう。

また、10月に実装を予定しているセキュアな環境下でのWEBカンファレンス機能は地域連携を深めるための強力な武器になると思います。現在ケアマネジャーは自身のスマートフォンを利用してWEBカンファレンスを行うことが多いようですが、セキュリティの問題に加え、「データ量や通信料などが気になる」という問題も出てきています。自身のスマートフォンを使うことなく「日病モバイル」を使ってセキュアな環境でWEBカンファレンスを行うことができるようになれば、このようなセキュリティやデータ量の問題を解決する糸口になると思います。

梶原院長から見た「日病モバイル」のおすすめポイントがあれば教えてください。

PHSは2021年1月に公衆網が停波します。院内限定の端末として利用されていても、いずれ機械は必ず壊れていくので切り替えが必要になります。その際、私は「日病モバイル」の導入をお勧めします。

「日病モバイル」のストロングポイントは「医療に特化している」とことと「きめ細やかなサービスである」とこと。大手のキャリアでは医療に特化していない分、細かな要望に応えることは難しいと思います。病院は規模や地域によって要望が違ってくるので、そこに真摯に対応して頂ける「日病モバイル」は多くの病院にとってメリットがあるでしょう。

現在は日本病院会会員施設での使用となっていますが、将来的には四病協の参加施設で標準的なツールとして使われることに期待します。



会員の他施設へのメッセージをお願いします。

日本病院会がリーダーシップをとって開発した「日病モバイル」は、これからの病院経営において、地域医療という観点でも、職員の業務効率化・満足度向上という観点でも有効なデジタルツールになると思います。

日本病院共済会 NEWS

VOL.156

2021.4

発行：株式会社日本病院共済会

年4回発行

発行人：堺 常雄

〒102-0075 東京都千代田区三番町 9-15

ホスピタルプラザビル 1F

TEL 03-3264-9888



(写真左)
医療法人社団研仁会
北海道脳神経外科記念病院
事務長
三森 政自 氏

(写真右)
医療法人社団研仁会
北海道脳神経外科記念病院
システム管理課 主任
河口 貢 氏

2020年1月のサービス開始から1年が経過した「日病モバイル」。

今回ご紹介するのは、広大な大地と厳しい寒冷を併せ持つ北海道の地で導入第一号となった医療法人社団研仁会 北海道脳神経外科記念病院。「患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供する」という理念を掲げる病院の取り組みと、コロナ禍においても患者様・ご家族のみならず、働いている職員に対しても理念を貫く医療体制を確保している同病院の事務長 三森政自氏とシステム管理課主任 河口貢氏に今後の同病院の進むべき方向性とその方向性に対する日病モバイルが果たす役割について話を聞いた。

日病モバイルは病院にとって 今後「なくてはならないもの」になる。

患者様の幸せのため、道内の地域医療の充実のために貢献できる病院を目指して。

当院は、北海道大学脳神経外科教室の初代教授都留美都雄先生の御退官を記念して、北海道の地域医療に貢献するために、初代院長の三森研自先生が1983年10月に設立されました。

設立時に確立した、当院の基本理念である患者様第一の精神を今日まで引継ぎ、「患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供できる病院」を目指しています。



毎日使うものだからこそ、働く職員の役に立つものを選んだ。

当院では今年、PHSの外線サービスの終了を迎えると同時に電話交換機の更新時期も控えていたため、ベンダーも含めてPHSの代替となる様々なツールを検討していました。常に持っているものだからこそ、今までのように電話機だけではなく、職員にとって役に立つ通信ツールとして活用できるものが良い、と考えていた時にフロンティア・フィールドより日病モバイルの紹介を受けました。

日病モバイルは安定した電波網（4G回線）を使用することから今の通話機能を十分に確保しながら院内・院外を通じて通信が可能であるということ、導入後も音声認識などのアプリケーションを加えることで業務効率や感染拡大防止を望める機能を追加できるということなどが当院の需要と合致すると判断し、導入に至りました。

「音声認識」「電子カルテ連携」etc.

1台で様々なことができ、さらに今後の拡張性や将来性が見込めることが日病モバイルの魅力である。

日病モバイルの最も大きな魅力は、医療現場で有効な様々なソリューションを利用できることです。まず、今では対応必須となっているナースコール連携が日病モバイルでは標準搭載となっていることが挙げられます。他にも、チャット機能を活用すれば、話す時間が取りづらい時や確認事項を知らせる時などはチャットで済ませることが可能になるため、対面か電話しか手段がなかった今までと比べて、話すタイミングなど相手の都合を考慮する必要がなく、職員同士のストレスが大幅に軽減されるでしょう。

また、当院では他の多くの病院同様、診療記録や看護記録に対する不効率性に課題を感じ、患者との問診や面談内容の入力時間や、電子カルテ端末の空きを待つ時間など、現場の職員を悩ます無駄をできるだけなくし、業務を効率化するにはどうしたらよいか考えていました。まだ開発段階ではありますが、日病モバイルが音声認識機能や電子カルテ連携に対応すれば、課題となっている非効率な時間の削減を可能にし、作業負担の軽減や時間外業務の圧縮を望めます。

このように日病モバイルは各病院の課題に合わせた利用方法を検討し、必要に応じて自社だけではなくパートナー企業を探すことによって、より各病院にとって有用性の高い日病モバイルのソリューションとして組み上げることができることから、当院としても今後も大きな期待を感じています。

日病モバイルによる病院業務の効率化が職員の満足度向上を生み、それが最終的に理念とする患者様の安心感や満足度向上に繋がる。

日病モバイルにはその他にも期待できる機能がたくさんあります。例えばスケジューラー機能を利用することで簡単に会議室の予約ができるため、今までのようにわざわざ会議室まで行って会議室の台帳で空きを確認して予約を記入する、という手間がなくなります。また、現在は紙を配って伝達しているような周知事項もインフォメーション機能を利用することで全職員に一斉周知が可能になります。これらの機能は職員の時間や労力の無駄を省くことに加えてペーパーレスによるスリム化やコスト削減も同時に実現します。さらに今後、日病モバイルとマイク付きヘッドホンを接続し、一人から部署内の日病モバイルを所持する全員に話しかけることができる「インカム機能」を加えることで、伝達スピードを上げることも可能になります。様々な業務改善に役立つよう作り上げていくことができる日病モバイルはただのコミュニケーションツールではなく、当院の業務の効率化を図るための「なくてはならないツール」になると考えています。

職員の業務が効率化されれば、それぞれのモチベーションが向上するだけでなく、患者様に向き合う時間が増え、患者サービスの向上も見込めます。日病モバイルの利用により、全ての職員が業務を効率化させ、その結果、病院の評判もより高まってくれたら最高です。



日病モバイルは、シームレスな診療体制の整備とともに地域住民への安心感の提供にも貢献ぜひ多くの病院におすすめしたい。

当院では、脳疾患を中心に急性期病院の機能として救急医療にも力を入れております。救急患者によっては、院外で待機中の医師へコンサルトをもとめる場合があります。現在は電話を利用して容態を説明していますが、中には口頭での説明が難しい場面もあります。そのような時、日病モバイルのチャット機能を利用すればLINEのように写真や文章を送ることができるため、迅速かつ正確に患者様の容態を伝えることができ、シームレスな診療体制を整備することが可能になります。このように日病モバイルを活用して地域医療の体制を整備することで、当院で診療を受けておられる患者様や地域住民の皆様にご安心感をご提供することができれば、当院の理念である「患者様とご家族に安心と満足を提供できる病院」を継続するためにも、日病モバイルは必要不可欠になってくるでしょう。

また、日病モバイルを提供しているフロンティア・フィールドは、病院のために親身になってくれる企業なので、安心して任せられるという点もおすすめしたいポイントの一つです。北海道という遠方地にもかかわらず東京から毎回足を運んでいただきましたし、導入の相談をする中で、当院の意見を理解し取り入れ、支援してくれる、良きパートナーだと思っています。ぜひ今後はさらに身近な存在になってもらうべく、北海道支店を出していただけるよう、もっともっと北海道で導入事例が増えてもらえれば良いと思っていますし、そのために当院としてできることは継続的にサポートしていきます。

会員の他施設へのメッセージ

日病モバイルは、1台で何でも出来て簡単に業務効率化を実現できる、選んでよかったと思えるツールです。

近い将来、音声入力や電子カルテ連携が実現できれば我々医療機関にとってなくてはならない存在になると思います。